

令和３年度 第１回 行財政改革推進会議

議 事 要 旨

〔日 時〕 令和３年７月２６日（火） 午後６時３０分
〔場 所〕 昭島市役所 ３階 庁議室（オンライン開催）
〔出席者〕

１ 委員

小池満也委員長、田中啓之副委員長、坂村一登委員、山下俊之委員、和田篤彦委員

２ 事務局

永澤企画部長、関谷行政経営担当課長、萩原企画調整担当係長

３ 傍聴者

なし

〔配付資料〕

- ・第１回行財政改革推進会議 日程
- ・令和３年度行財政改革推進会議スケジュール（案）
- ・令和２年度評価シート（案）

〔議事要旨〕

１ 令和３年度行財政改革推進会議スケジュール案について

令和２年度の評価を本日の会議及び次回会議（８/２０（金））にて、令和３年度の評価を１１月、１２月に予定する第３回、４回の会議にて行いたい。その後、事務局にて１月頃までに報告書（案）をまとめ、２月の第５回会議にて報告書（案）の内容についてご議論いただき、３月の第６回会議で市長へ報告とするスケジュールで考えている。

＜質疑応答＞

- ◆ 令和３年度の評価を年度途中の１１月、１２月に行う予定ということであるが、問題ないのか。
【田中副委員長】
- 今年度中に次期行財政改革推進プランの策定準備を行っていく予定のため、年度内に令和３年度についても一定の評価をいただきたい。また、評価を受けて次年度への予算等にも反映させていきたいと考えているので、よろしく願いたい。【事務局】
- ◆ 事業実施年度と評価年度のタイムラグがなくなることは良いことだと思う。タイトなスケジュールではあるが各委員も了承願いたい。【小池委員長】

２ 令和２年度の評価について

基本方針１「時代を捉えたまちづくりの推進」、２「財源の確保」及び３「効果的・効率的な財政運営」について、事務局より令和２年度評価シート（案）に沿って説明し、その後、各委員より質疑。

〈質疑応答〉

全体事項

- ◆ 評価が「C」の部分と「－（ハイフン）」の意味合いについて、計画していたがコロナの影響で中止となった場合は「C」という理解でよろしいか。【坂村委員】
- コロナの影響等、当初計画していたが実施に至らなかったものについては個別評価を「C」としている。当初の段階で取組むべきものが無かったものについては「－」としている。【事務局】

1－（1）安全・安心なまちづくりの推進

①危機管理体制の確立

- ◆ 今後の取組方針の内容について、富士山の噴火による火砕流、火山灰等の災害について、検討項目の中に盛り込んでいただきたい。今年3月に富士山の火砕流についての見直しがあり、近隣県でのハザードマップの見直しを検討しているようである。東京都や昭島市域においては火山灰が約10cm積もることであるが、電線、道路等、市民生活への影響が大きいと考える。【和田委員】
- 東京都を通じて防災課に情報が通知されているかと思うが、改めて担当課へ確認し、都内や昭島市へどの程度の影響があるのか確認したい。今後の取組方針に掲載できるものについては、掲載していきたい。【事務局】

1－（2）積極的な情報発信

①効果的・戦略的な情報発信の推進

- ◆ 主な取組に「昭島ロケーションサービスによるロケ受入」は、FaceBook（以下「FB」）にてロケの内容が紹介されており、かなり魅力的な内容である一方、Twitterは更新が止まっている状況である。FBはTwitterほど利用されていないため、FBの内容をTwitterに流すことにより昭島市のシティプロモーションとして、より効果があるのではないかと。また、市の公式Twitterにてロケーションサービスのツイートをリツイートできると市内外へ昭島の魅力をさらに発信できるのではないかと。【田中副委員長】
- ロケーションサービスは、市ではなく民間団体が行っているが、市公式Twitterの運用ルール上、民間団体のツイートをリツイートすることは現状では難しい状況である。【事務局】

1－（3）窓口サービスの充実

①市民との連携、参画・協働によるまちづくりの推進

- ◆ 自治会への加入促進の取組について、令和2年度転入者への加入案内の配布とあるが、配布に加えて加入の働きかけなど、市はどのように行っているのか。【田中副委員長】
- 自治会への加入案内の件であるが、転入手続の際に自治会への加入案内を配布している状況である。新たに戸建、マンションが建設される際に、地域開発課から各自治会へ情報提供を行っており、その後、各自治会から加入の働きかけを行っていると聞いている。【事務局】
- ◆ 多様な街づくり団体について、自治会以外にもたくさんあると思う。取組の中では自治会、アダプトの記載があるが、それ以外の団体との関わりについてはどのように考えているか。【山下委員】

- ご指摘の通り、様々な活動をしている団体があることは承知しているが、その活動実績をどのように評価するかについて、その検証が難しく、取組項目には記載できていない状況である。

【事務局】

- ◆ まちづくりの研究団体やサークル的な団体の中から、連携団体として育成していくことが可能なのではないか。【山下委員】
- 各種団体について、活動内容の中身までは把握しきれておらず、様々な団体に対し、どのように運営支援していくかについては、検討に至っていない状況である。今後の取組方針の中に、まちづくり団体等の活動内容の把握について検討したい。【事務局】

1－（４）窓口サービスの充実

①窓口サービスの質的向上

- ◆ 総合評価がBとなっているが、Aでも良いのではないかと考える。AI・RPAは、現状では自治体業務に展開していくというのはかなり難しい状況であると思っている。マイナンバー、コンビニ交付が増えていることを評価して、総合評価はAで良いのではないかと考えるがいかがか。【和田委員】
- AI・RPAは、令和2年度においては、実用化には至っていないが、令和3年度に保険年金課にてレセプト点検に関する業務で導入したところであり、導入にあたり2年度に検討がなされていたところである。このような実施状況を鑑みて、評価を修正するかどうか、各位委員のご意見も伺いたい。【事務局】
- ◆ 主な取組だけを見れば総合評価をAでも良いと考えるが、窓口サービスの充実と考えた場合、全体としての市民の満足度を考慮し「B」としたのではないかと考える。【山下委員】
- ◆ 保険年金課でのAIの導入実績があるのであれば、その辺りを記載して評価を上げてもいいのではないかと考える。AIについては個人のPCにおいても導入できる時代なので、保険分野以外でもデータ分析等、活用していただきたいと期待している。【田中副委員長】
- ◆ AI・RPAについては、データベース化とその目的をしっかりとしないといと最終的には手法だけが運用されるのみで、ソフトの面での活用が進まないと実効性がない。レセプトはデータベース化しやすいと思う。導入に向けた進展もあるため、「A」でも良いと考えるが、事務局としてはいかがか。【小池委員長】
- 令和3年度からの導入を受けて、2年度においては「検討」と少し具体化した表現としている。各委員からご意見いただいたとおり、総合評価を「A」と修正をしたい。【事務局】
- ◆ それでは、改めて各委員の了承が得られれば総合評価も「A」としたいがいかがか。【小池委員長】

(各委員 了承)

2－（３）受益者負担の見直し

②新たな受益者負担の導入

- ◆ 「教育福祉総合センター」と記載があるが、市民にとり馴染のある「アキシマエンス」という名称をカッコ書きで追記すると、より分かりやすいと考える。【和田委員】
- ご指摘の通り、「アキシマエンス」という愛称が市民に広く周知されていることから、カッコ書きで追記したい。【事務局】

- ◆ 常に新しい受益者負担を設定するのは困難だと思うので、今後の取組方針として、「新たな受益者負担の導入」という単語があるが、そのあとに、「導入や、これまでの見直し結果の評価について」というような文言を加え、常に新しいものを見つけるだけではなく、負担の見直しをした結果の評価についても取組内容に入れてはいかがか。【田中副委員長】
- 今後の取組方針のところで、「新たな受益者負担の導入やこれまでの見直し結果の評価について、引き続き調査・研究していく」、という内容にて修正したい。【事務局】

2－（５）更なる歳入の確保

②新たな歳入の確保に向けた取組

- ◆ 今後の取組方針で「中神駅自由通路への広告設置による広告料収入について検討を進める。」とあるが、市内のほかの駅では自由通路での広告がなされており、中神駅のみなされていないため、特記事項のような意味合いで記載されているのか。【山下委員】
- すでに取組んでいるものが拝島駅の自由通路であるが、その他の駅として、昭島駅は市の所有ではなく JR の所有となっている。東中神駅の通路は道路の指定を受けているが、道路には広告物を掲出できない規定があり、JR との協定の中で道路法の道路として管理するとしている。中神駅自由通路は近隣住民からの看板掲出への要望もあり、道路認定における区域を一部変更し広告設置を検討している。【事務局】

3－（１）行政評価制度の再構築

①行政評価制度の再構築

- ◆ 以前は 500 弱の事業を評価していたものが、令和 2 年度においては、108 事業と相当数減少しているが、事業を限定して評価したものなのか。また、各部課において事業の廃止・休止・見直し等を積極的に行ったことにより、約 1.8 億円の効果額が出ているが、削減した事業の上位項目について、部門、事業内容、金額、理由等を分かる範囲でお示しいただきたい。【和田委員】
- 例年、実施計画策定、予算編成の過程において、各主管課において一定の見直しが図られているため、令和 2 年度については事業の廃止・休止・見直し等を検討している事業を対象とした。また、コロナ禍による税收等への影響もあり、積極的に事業内容の見直しを行うことで対象事業を限定した。さらに、実施計画において採択された事業においても翌年度以降の事業の見直し等を図ったことにより、約 1.8 億円の効果額が出たものである。

特に効果を上げた事業については、後日、改めて提示したいと考えている。主な理由としては、イベント等を中止にしたところで事業自体が削減されたことがあげられる。【事務局】
- ◆ 見直しによる翌年度予算への効果額については、どちらかというと、行革効果による見直しということであって、行政評価制度の見直しによって効果が出たものではないという気がする。【山下委員】
- 事務事業評価を踏まえた既存事業の見直しによる効果額については、行革効果での成果という性格が強いため、行政評価制度の再構築を今後どのように取組んでいくか、今後の取組方針の記載内容を検討したい。【事務局】

3－（２）補助金等の適正化

①補助金等の適正化

- ◆ 予算編成過程の中で、一定のルール、マニュアル化が実施されている方向で見直しが図られているという理解でよろしいか。【小池委員長】
- 補助金等適正化委員会や事務事業評価などの取組により、補助金の見直し等、一定の適正化を図ってきたところである。令和２年度においては、現金の取扱に関して職員の不正があったことを受け、準公金に係る現金取扱基準を定め、それに基づく適正化を実施したところである。【事務局】

その他の事項

- ◆ 以前は、「３（５）②のごみ処理の広域化に向けた取組」について記載されていたが、令和元年度以降、環境部の部内検討項目に移行するということで、報告書としては取り扱わないと理解しているが、令和２、３年度の総括の報告書をまとめるにあたり、当会議で検討したという記録として残しておくことも一案と考えられるがいかがか。【和田委員】
- 令和元年度の評価報告にあたり、昨年度の会議において、ごみ処理の今後の方針が明確にならない中で、具体的な項目として取り上げるものがないのであれば、当分の間、項目として記載しないことで報告書をまとめるという経緯があった。【事務局】
- ◆ 今年度報告書にまとめるにあたり、５ヵ年の評価のまとめの際にどのように取扱うのかというところも確認したい。【和田委員】
- 昨年度の議論の中で、今後新たな展開となった際には改めて取組項目として再度評価をしていくという理解であるが、現状では新たなごみ処理の方法について、具体的な内容は決まっていない状況ではないため、この内容で進めたいと考えている。【事務局】
- ◆ 令和３年度以降も具体的には決定していないということで、改めて方針が決まった段階での評価ということで、よろしいか。【小池委員長】
(各委員 了承)
- ◆ 本日の議論はここまでとし、評価シート内容修正を含めて改めて事務局にて検討し、各委員へ送付していただきたいがよろしいか。【小池委員長】
(各委員 了承)

3 その他について

今後の会議日程について、以下の日程での開催を確認し、閉会とした。

なお、開催方式は引き続きオンラインでの実施とするが、PCの通信状況の不具合等が懸念される場合は、事務局との事前調整の上、直接会場にて参加することも可能とする。

- ・第２回会議…8/20（金）午後６時３０分～
- ・第３回会議…11月に開催予定